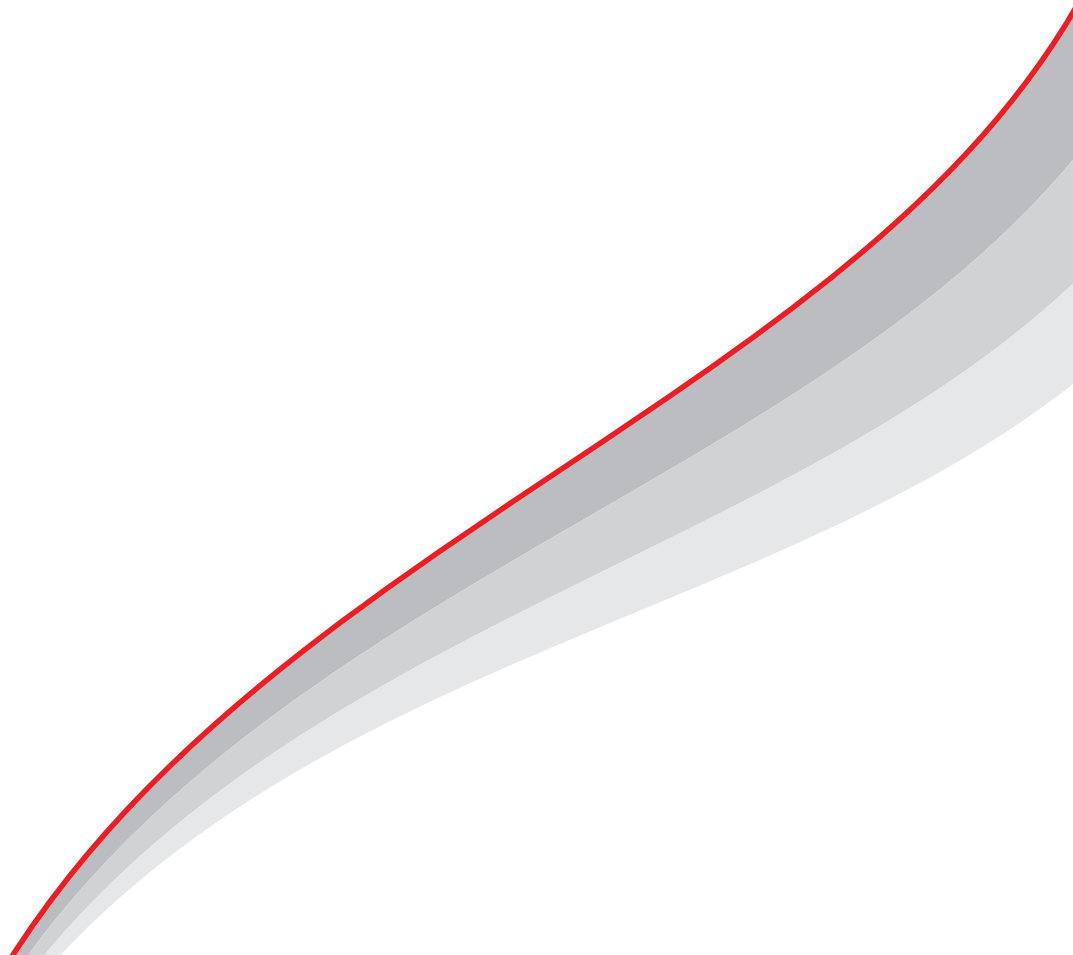


CORPORATE PROFILE

会社概要



社会の発展とともに

時は明治、日本が目指す科学立国への思いに共鳴した初代島津源蔵。

理化学器械の国産化と普及を通じて社会に貢献したい、

その思いこそが島津製作所の始まりでした。

以来、時代の声に真摯に耳を傾け、

科学技術で社会の発展を支え続けています。



1895(明治28)年ごろの島津製作所(木屋町本店)

島津製作所の歴史は、初代島津源蔵が理化学器械の製造を始めたことから始まります。

創業の地、京都木屋町二条周辺には、西洋の技術を導入した産業施設が多数設立されていきました。技術導入の拠点であった舎密局(せいみきょく)に足繁く通った源蔵は、外国製器械の修理や整備の仕事を始めます。そして、舎密局でドイツ人科学者、ゴットフリード・ワグネル博士と出会い、その後3年間にわたり西洋の科学技術の教えを受けました。源蔵は製品の構造やその裏にある理論を学び取り、自ら理化学器械を製造して教育現場で身近な存在とすることを決意。時は1875年、ここから島津製作所が最初の一步を踏み出しました。



ゴットフリード・ワグネル博士



舎密局



SHIMADZUの礎を築いたふたりの源蔵

明治時代初期に有人軽気球飛揚を実現させ、 科学立国を夢見た初代源蔵

初代源蔵は仏具職人として江戸時代末期より、木屋町二条で事業を営んでいました。明治になると廃仏毀釈の波が押しよせ、その地が、京都近代化の中心地となっていきます。辺りに漂う西洋技術や先端科学の薫りに目覚めた初代源蔵は、仏具製造の事業から転じて、1875年、三十代半ばにして後の島津製作所となる教育用理化学器械の製造工場を創業します。そして創業3年目の1877年、「理化教育に対する府民の関心を一層高めるために、人を乗せた気球を上げたい」と京都府からの依頼が舞い込みます。西欧の絵で見たことがあるくらいで、役立ちそうな資料もほとんどないなか、源蔵は試行錯誤を重ねます。開催日の12月6日、円形に並べた酒樽の中で鉄くずに希硫酸を注いで発生させた水素ガスが、鉄パイプで繋いだ中央の大樽を介してバルーンに充填されていきます。

4.8万人の見物客が見守るなか、軽気球は浮き上がり、約36mの高さまで上昇しました。この実験の成功は、多くの人々に島津の技術力を知ってもらう機会となりました。



1877(明治10)年 軽気球飛揚に成功



初代 島津源蔵

178件もの発明考案を果たし、 SHIMADZUを飛躍させた二代源蔵

二代源蔵は、多くの新技術の開発と発明考案に全力を注いだ人物です。レントゲン博士がX線を発見したわずか11か月後の1896年にはX線写真の撮影に成功し、1909年に国産初の医療用X線装置を開発しました。また1930年には、日本の発明界に偉大な業績を残した十大発明家の一人に選ばれます。それは、当時生成できなかった鉛の粉末化を可能にした発明「易反応性鉛粉製造法」が評価されたものでした。その製造法は、乾電池や蓄電池の製造をはじめ多くの産業を躍進させる突破口になりました。晩年の二代源蔵が語った「学理を教えられたらその応用を考えなくてはならない」という技術者としての信念は今もなお島津製作所の中にしっかりと受け継がれています。



1896(明治29)年 初期のX線写真



二代 島津源蔵

「科学技術で社会に貢献する」を社是とし、 より便利で安心・安全な社会の実現に貢献しています。

常にお客様から寄せられる要望、そしてその先にある社会の課題解決に
応え続けることで、私たちは進化、成長を続けてきました。

理化学器械の普及・発展

最先端の教育器械を提供

1882年発行の商品カタログ「理化学器械
目録表」には110点もの物理器械などが
掲載されています。



1882

医療機器の発展・普及

医療用X線装置を完成

国産最初の医療用X線装置を完成。その2年後に
は、交流電源を用いた大型医療用X線装置を製
造し、大津日赤病院へ納入するなど、日本の医療
用X線装置の黎明期をリードしま
した。



1909

日本初

放射線の被ばく低減

遠隔操作式X線TV装置を開発

別室での操作により、医師や放射線技師の被ば
くを低減しました。

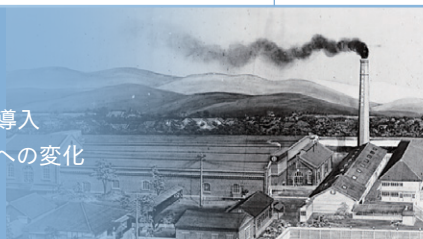


1961

世界初

文明開化

- ▶ 海外の近代科学の導入
- ▶ 近代的な生活様式への変化



戦後からの復興

- ▶ 医療基盤の整備と量的拡充
- ▶ 石油・化学産業の発展



1897

安定的な電力供給の必要性

蓄電池の工業生産を開始

当時輸入品に依存していた蓄電池の
試作品を京都帝国大学の依頼で製作
しました。1904年に据置用蓄電池の
製作に成功しました。



1956

石油精製業の活性化

ガスクロマトグラフを開発

日本初のガスクロマトグラフを完
成。翌年には商品化に成功し、先進
的な製品として国内の石油会社に
納品されました。同装置は日本化
学会にも出品されて注目を集め、
勃興期にあった日本の石油化学産
業の発展に貢献しました。



日本初

京都の木屋町二条に創業
設立(株式会社化)

(年度) 1875 1917 1945 1950 1955 1960 1965 1970 1975 1980
売上高推移 ※1999年度までは単体、2000年度からは連結ベースで記載している。

自動車の安全性向上

疲労試験機1号機を製造 自動車メーカーに納入

自動車メーカーの求めに応じて開発した走行シミュレーター。走行データを早送り再生する加速試験も可能で、耐久性向上試験の効率化に貢献しました。



1967

社員による ノーベル賞受賞

田中耕一※ ノーベル化学賞受賞

開発したソフトレーザー脱離イオン化法は、タンパク質などの質量の大きな生体高分子を壊すことなくイオン化し、精密に質量を分析できる手法として、病気の早期発見や新薬開発などに活用されています。

※現エグゼクティブ・リサーチフェロー

2002

COVID-19の感染拡大

全自動リアルタイム PCR検査装置 及び新型コロナウイルス 検出試薬キットを開発

検体の前処理から測定、解析までをシームレスで自動化し、PCR検査の迅速なワークフローを実現しました。



2020

食と健康のイノベーション創出

業界最小クラスの ガスクロマトグラフ質量分析装置を開発

高い感度・耐久性・保守性で食品中の機能性成分や残留農薬の分析から、医薬、化学、環境分析の幅広い分野をカバーします。



2023

高度経済成長

- ▶ 自動車産業の発展
- ▶ 医療保険制度の充実による
医薬品産業の発展



QOLの向上

- ▶ 健康寿命を延ばす
科学技術の振興



1978

日本初

医薬品の安全性・有効性

モジュラー構造の 液体クロマトグラフを完成

当時の日本市場にはなかった新しいポンプ方式を採用することで、分析精度や操作性が飛躍的に向上。モジュラー構造を採用することによって多様な要求に対応できるようになりました。医薬品の安全性・有効性の確保を求める製薬産業で本格的な研究開発活動に貢献しました。



2010

日本初

臨床検査医学の進展

国産初ハイエンドの 液体クロマトグラフ質量分析装置を開発

高速液体クロマトグラフ質量分析装置のリーディングカンパニーとして、新生児マススクリーニングや血中の薬物動態モニタリングなど臨床分野での活用を拡大しています。



2021

世界初

乳がん診療・ 認知症研究を支える

頭部と乳房の検査に特化した TOF-PET装置を開発

乳房を挟まない痛みの少ない検査装置で、乳がん診療に寄与します。新しい装置は脳の検査も行え、認知症研究にも貢献します。



(億円)
5,500
5,000
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500

1985

1990

1995

2000

2005

2010

2015

2020

世界のお客様とともに科学技術でイノベーションを創出し、 社会課題の解決にとりくみます



島津製作所は、「科学技術で社会に貢献する」を社是として事業を展開し、創業から150年を迎えました。

当社が提供する分析・計測機器や産業機器、航空関連機器は、多くの産業分野で広く採用いただき、お客様の事業を通して社会の安全、安心を守り、利便性を向上させる役割を果たしています。

また、医療機関における診断、治療、健康測定や、新薬の開発を支援する機器は、健康な日々を過ごしたいという人々の願いを支える大切な役割を担っています。

私たちが微力ながらも社会に貢献し続けることができた理由、私はそれを、お客様が解決したい課題に向き合い挑戦を続けてきたことにあると考えています。気体から液体、固体まで、遺伝子もタンパク質も、およそあらゆる物の性質を「分けて見る」ための技術を磨いてきました。また、モノづくりの鍵となるデバイスの開発や新技術の創出にも繰り返しチャレンジしてきました。その積み重ねが多様性に富んだ技術の宝庫を築き上げ、お客様から課題を寄せられた際に、いち早くSolutionを見出すことにつながったのだと考えています。

社会は今、過去に経験したことのないほどの勢いで変化を続けています。パンデミックや地球温暖化、少子高齢化など、絶え間なく課題が生まれてくる中で、私たちは積極的にその解決に挑もうと決意を新たにしています。社会と地球の声なき声に耳を澄ませ、私たち自身が解決に向けて立ち上がり、世界のお客様とともに新たなイノベーション創出に取り組む。これこそ「科学技術で社会に貢献する」ことを社是に掲げる私たちの使命です。

島津は、これまでの技術と知恵を受け継ぎながら、もう一段高いレベルへとシフトします。これからの島津にどうぞご期待ください。

代表取締役 社長 **山本 靖 則**

ヘルスケア領域

人の命と健康への
貢献



プラネタリーヘルス (人と地球の健康)の追求

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

マテリアル領域・ インダストリー領域

産業の発展、
安心・安全な社会の
実現への貢献

グリーン領域

地球の健康への
貢献

社 是 | 科学技術で社会に貢献する

経営理念 | 「人と地球の健康」への願いを実現する

島津グループサステナビリティ憲章



当社は2025年3月31日に創業150周年を迎えました。
この大きな節目を記念し、ロゴマークを制定いたしました。
初代島津源蔵が軽気球の飛揚に成功したことに由来し、
周年を表す150の「0」に気球をデザインしています。

事業分野と取り組むテーマ

卓越した科学技術で複雑化する社会課題の解決に貢献しています。

- 医療機関での診断・治療支援
- 病気の超早期検査への貢献



医療

- 航空機の安全な運行と搭乗者の快適な環境に寄与
- 自動車の安全性・快適性評価試験
- 産業車両や建設機械の動力源



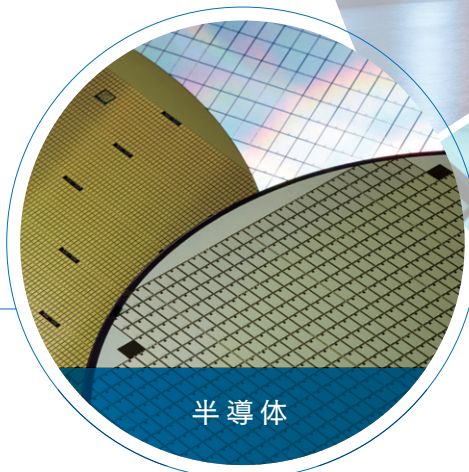
モビリティ

- 社会インフラや産業インフラの疲労耐久試験、劣化計測
- 各種モニタリングサービス



インフラ

- 半導体の製造工程
- ディスプレイの製造工程



半導体

- 電子機器・電気部品の開発・品質管理



電機

ヘルス

インダストリー

マテリ



- 医薬品の研究開発・品質管理
- 医薬品の生産設備の管理



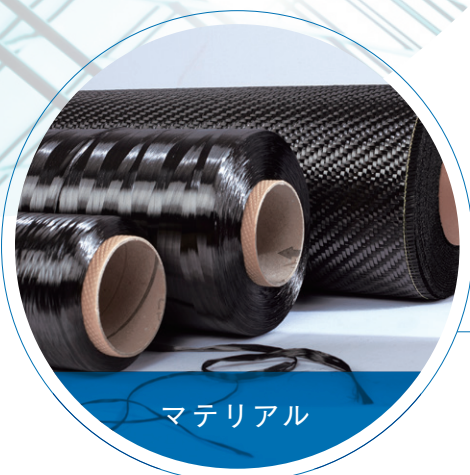
- 原料の特性評価・成分分析
- 残留農薬の測定、風味・食感測定試験
- 機能性食品の開発支援



- 再生可能エネルギーの開発
- 大気・水・土壌の分析
- 産業廃棄物の分析



- 石油化学品や化成品の開発・品質管理



- 高機能・軽量な新素材などの開発

ケア

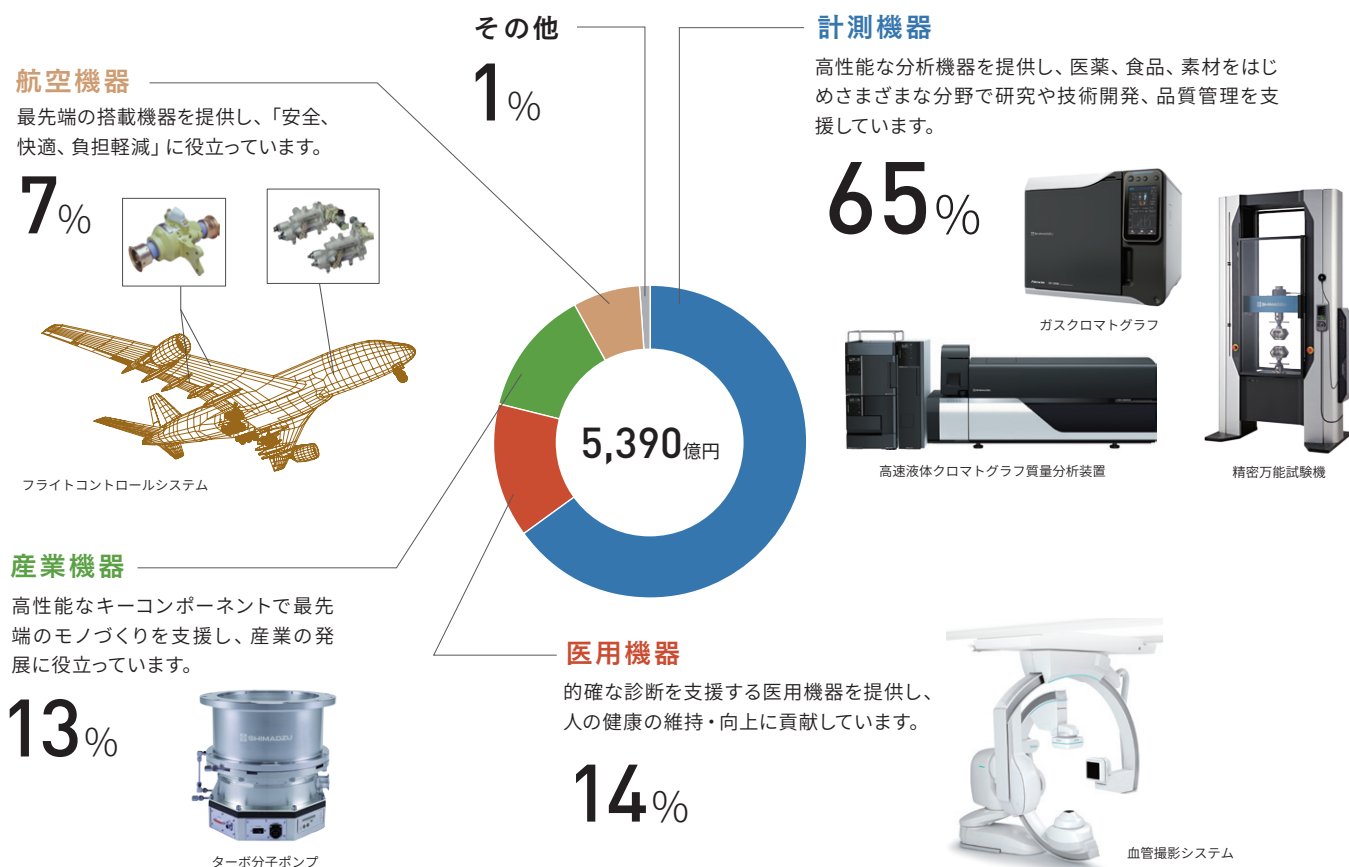
グリーン

アル

マテリアル

事業概況

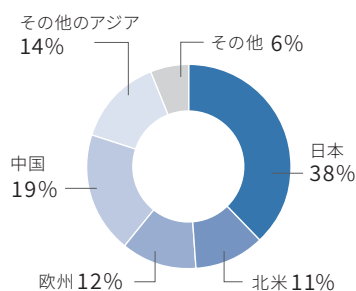
事業別売上高比率



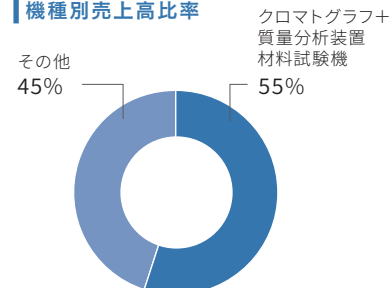
計測機器事業



売上高 地域別内訳



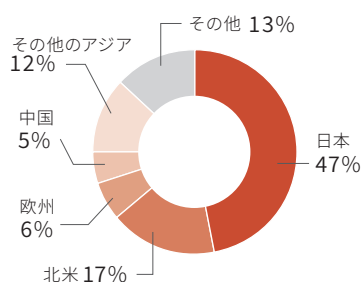
機種別売上高比率



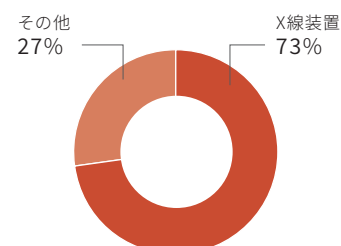
医用機器事業



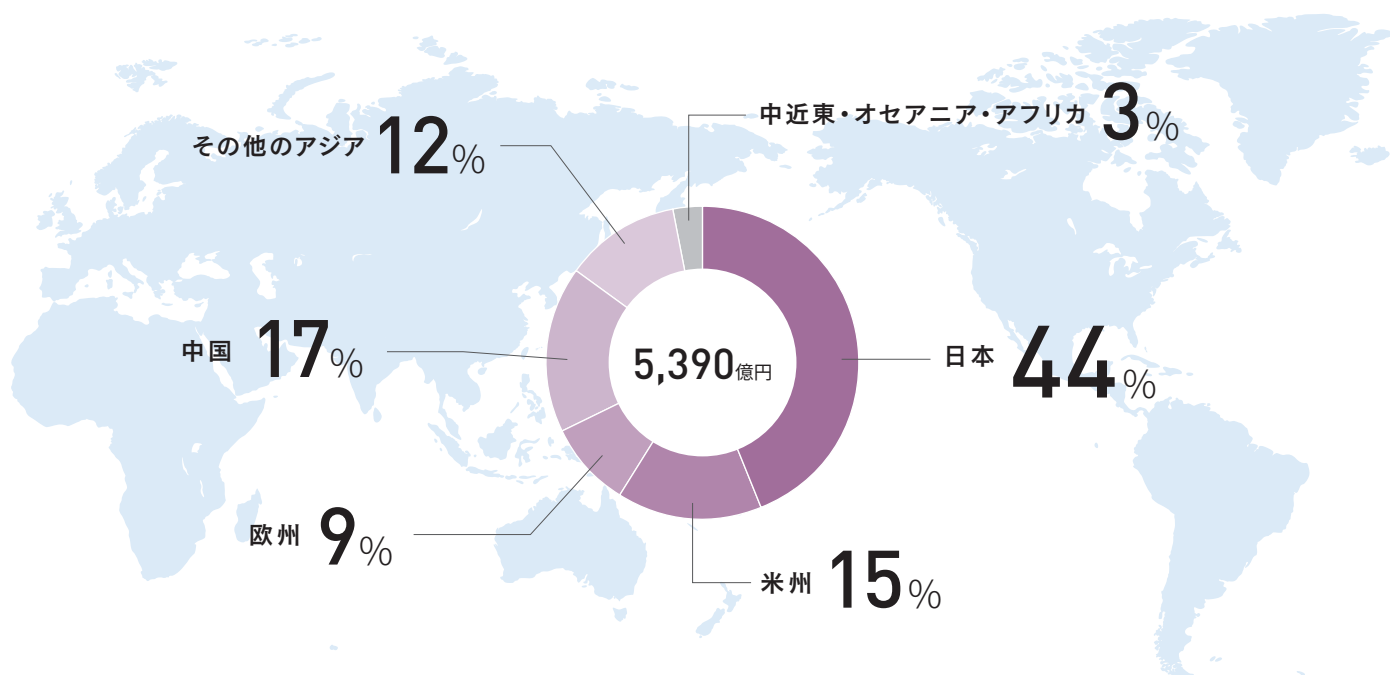
売上高 地域別内訳



機種別売上高比率

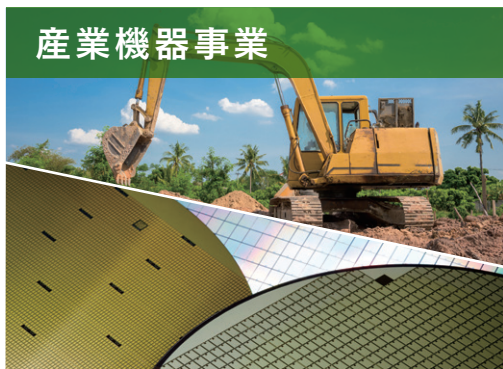


地域別売上高比率

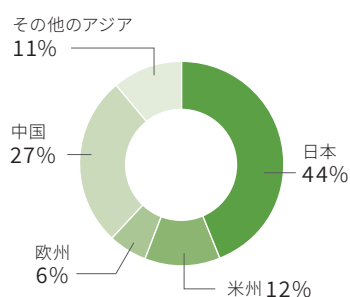


(注) 比率の数字は、表示の数値未満を四捨五入しております。

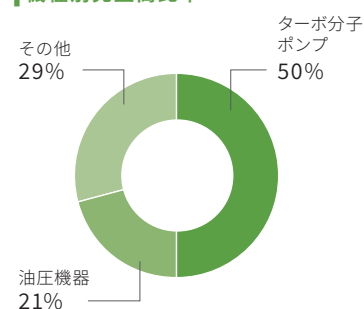
産業機器事業



売上高 地域別内訳



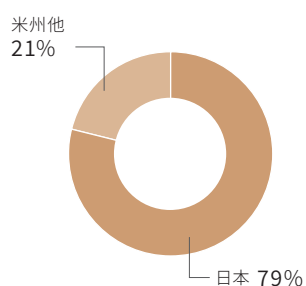
機種別売上高比率



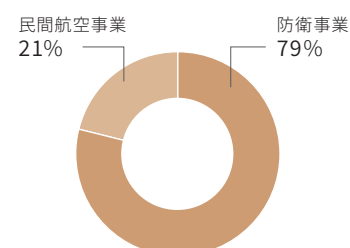
航空機器事業



売上高 地域別内訳



市場別売上高比率

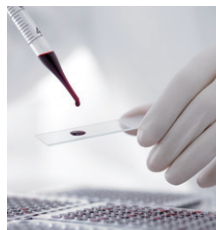




最先端の分析計測技術で
ヘルスケア、環境、グリーンエネルギー、
新素材など、さまざまな分野での
研究開発・品質管理に
貢献しています。

病気の早期検査や医薬品開発

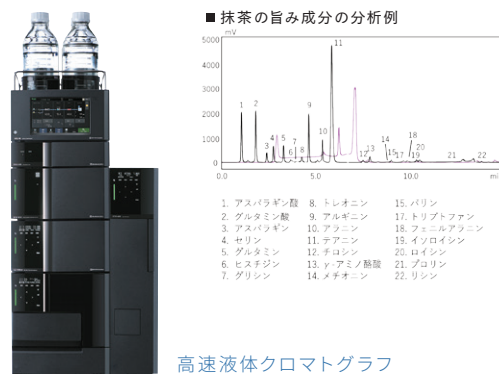
液体中に存在する極めて微量な成分の種類や量を測定できます。血液や尿などに含まれる代謝物や薬効成分を調べることで、がん・認知症のスクリーニングや医薬品の効果確認などへの応用が期待されています。



高速液体クロマトグラフ質量分析計

食品の機能性成分や安全性、 医薬品の含有成分分析による品質管理

食品や製薬などの幅広い分野において、研究開発から品質管理まで幅広い用途で使用されています。例えば、アミノ酸を迅速に測定することで、食品の美味しさや品質などの評価に役立っています。



高速液体クロマトグラフ

医薬品製造工程の洗浄バリデーション

水、ガス、固体内の有機体炭素の総量を測定できます。環境調査や医薬品の品質管理、プロセス管理などの多彩なニーズに応えます。



全有機体炭素計

各国薬局法による医薬品および原料の確認試験

日本や米国・EUなどの薬局法に基づいた確認試験に多く利用されています。また、光学材料、半導体、大学や官庁など幅広い分野で利用されています。



紫外可視分光光度計



新エネルギー分野での不純物分析、品質評価

試料に含まれる微量成分を高精度に測定できます。新エネルギーの水素やバイオ燃料をはじめ、環境、医薬、食品、化学、電子機器など幅広い分野で活躍しています。



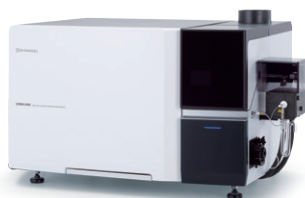
ガスクロマトグラフ質量分析計



ガスクロマトグラフ

土壌、水、大気などの環境試料の微量元素分析

試料に含まれる低い濃度の元素まで検出でき、同時に多くの元素を分析できます。環境試料の他、食品、医薬品など幅広い分野で使用されています。



ICP質量分析計

排水中の窒素・リンの濃度管理

河川等へ排出される窒素およびリンの濃度を測定できます。クラウド上で排水情報を常に監視することができ、水質総量規制対応に活躍しています。



オンライン全窒素・全リン計

環境水中のマイクロプラスチックの分析

赤外光を利用してマイクロプラスチックの定性分析ができます。その他、食品、医薬品、電子部品などに付着した微小異物の定性分析も可能です。



マイクロプラスチック
自動前処理装置



フーリエ変換赤外分光
光度計



海岸で採取した
マイクロプラスチック



次世代自動車の各種材料の強度評価

ゴム、プラスチック、金属などの素材から食品、医薬品、電子部品やEV、PHV、FCVなどの次世代自動車に至るまであらゆる対象物の強度試験ができます。製品開発・品質管理の現場で幅広く活躍しています。



自動車シートの実物シミュレーション試験

精密万能試験機



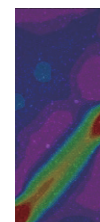
高速度撮影による先端材料の挙動観察

最高2,000万コマ/秒の超高速撮影による瞬間の挙動を可視化できます。材料破壊、流体力学、燃焼、スポーツサイエンスなど、幅広い分野で活用されています。



高速度
ビデオカメラ

撮影例：CFRPの高速引張試験におけるDIC解析
撮影速度：2,000万コマ/秒

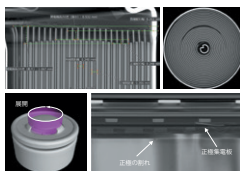


リチウムイオン電池など工業製品の内部観察

X線を用い、非破壊で内部状態を解析・検査ができます。電子部品や充電電池、CFRP/CFRTP等の高機能素材まで多彩な工業製品に対応します。



マイクロフォーカス
X線CTシステム



リチウムイオン電池の撮像例

RoHS指令 規制対象元素のスクリーニング

非破壊で固体、粉体、液体などに含まれる元素の種類や量を測定できます。自動車・電気・電子機器などさまざまな材料・物質のスクリーニング検査に利用されています。



蛍光X線分析装置



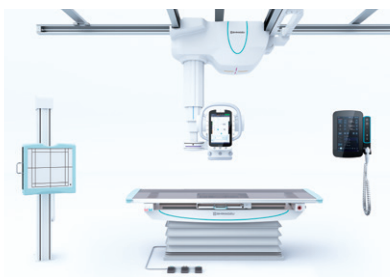
電子部品（コネクタ）の分析例



最先端のイメージング技術で、
患者への負担を軽減し、
使用しやすい医療システムを提供。
世界中の医療現場で、脳／心臓をはじめ
全身を対象にがんや認知症・感染症など
様々な疾病の早期発見や診断、
治療に貢献しています。

X線撮影のスタンダード(レントゲン装置)

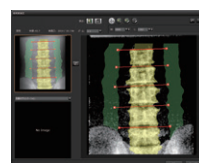
X線を用いて胸や骨などを撮影する検査に使用されます。近年は様々なアプリケーションとの組み合わせやスムーズな検査を支援する機能を拡充しています。



一般撮影システム

健康長寿のために

消化管造影や内視鏡検査だけでなく、骨密度測定などの整形外科領域の検査にも対応できます。高齢化社会における骨の健康増進をサポートします。



AI技術に応用した
骨密度計測



X線TVシステム

病棟内を移動しベッドサイドで画像確認

病棟のベッドサイドや院内のさまざまな場所でX線撮影ができ、搭載モニタに表示される参照画像をその場で確認できます。感染症、災害時の対応、手術室や救命救急など、様々なエリアの画像診断をサポートするX線装置です。



回診用X線撮影装置

AI技術に応用し、手術後の体内
遺残物確認を支援



がんの呼吸体動を追跡し、高精度な放射線治療を支援

患者さんの治療対象部位との位置合わせだけでなく、呼吸体動による、がんの動きを追跡してその照射タイミング情報を提供することで、高精度な放射線治療を支援します。



放射線治療関連

心臓・脳および全身の血管のカテーテル治療支援

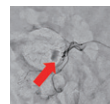


血管撮影システム

動脈硬化により狭くなった血管を拡張したり動脈瘤を塞ぐカテーテル治療で、独自の画像処理技術を用い、患者負担の少ない治療を支援します。

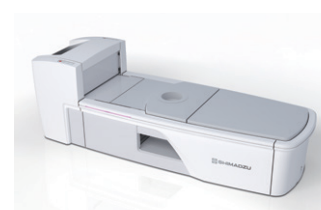


心臓血管画像
カテーテルの視認性向上と被ばく低減を実現



腹部血管画像
患者や機器の動きの影響なく低被ばくで見たい血管を描出

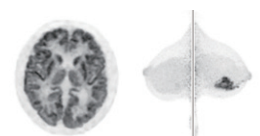
認知症・乳がんの診療を支える



頭部・乳房用TOF-PET装置

頭部と乳房の両方の検査に最適化したPET装置です。全身PETでは描出が困難な薬剤分布の把握を可能にし、より精度の高い診断を支援します。乳房検査では、乳房を挟まない痛みの少ない検査で乳がん診療に寄与します。

頭部および乳房画像
データご提供：近畿大学高度先端総合医療センター
PET分子イメージング部様



産業機器

半導体やディスプレイの製造に

半導体やフラットパネルディスプレイなどの製造プロセスに欠かせない真空環境をつくり出す真空ポンプです。

ターボ分子ポンプ



自動車や半導体分野で用いられるセラミックスの製造に

真空・加圧下で熱処理し、金属やセラミックス素材などを焼き固め、強度と一定の形状を得る装置です。食品の風味向上・栄養素保持技術としても注目されています。

真空加圧焼成炉



産業車両や建設機械の油圧動力源

産業車両（フォークリフト）をはじめ、建設機械、特装車両、農業機械などの油圧源として、幅広く活用されています。

油圧歯車ポンプ



産業車両の動力系として

油圧歯車ポンプから送り出された作動油の方向、圧力、流量を制御する機器です。当社製品は産業車両（フォークリフト）で活用されています。

油圧コントロールバルブ



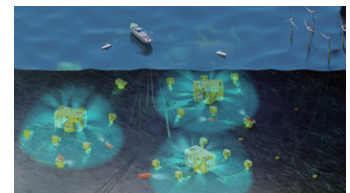
安全かつ効率的な海洋開発のために

半導体レーザー(LD)の技術に応用した水中光無線通信装置を始めとする海洋機器にも取り組んでいます。従来、無線では音響を用いた少量のデータ通信しか行えなかった水中で、LDを用いることで4G並みの高速通信を可能にする製品です。

洋上風力発電や海底資源など注目が集まる海洋分野において、「水中作業のリモート化による安全性向上」「効率化によるCO₂排出量の削減」に貢献します。



水中光無線通信装置

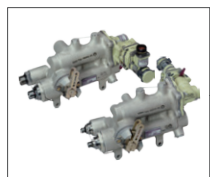


イメージ

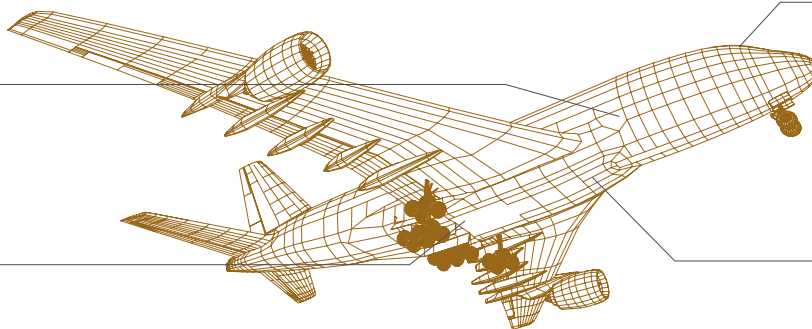
航空機器

安全な運行と搭乗者の快適な環境を実現するために

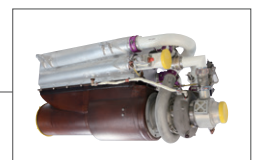
航空機の揚力や機体姿勢などを制御するフライトコントロールシステム、パイロットに様々な飛行情報を表示するディスプレイシステム、機内の空気系統を統括して制御するエアマネジメントシステムを手がけています。高品質なメカニカル技術や高信頼性の電子制御技術・光学技術で安心・安全な飛行に貢献しています。



フライトコントロールシステム



ディスプレイシステム

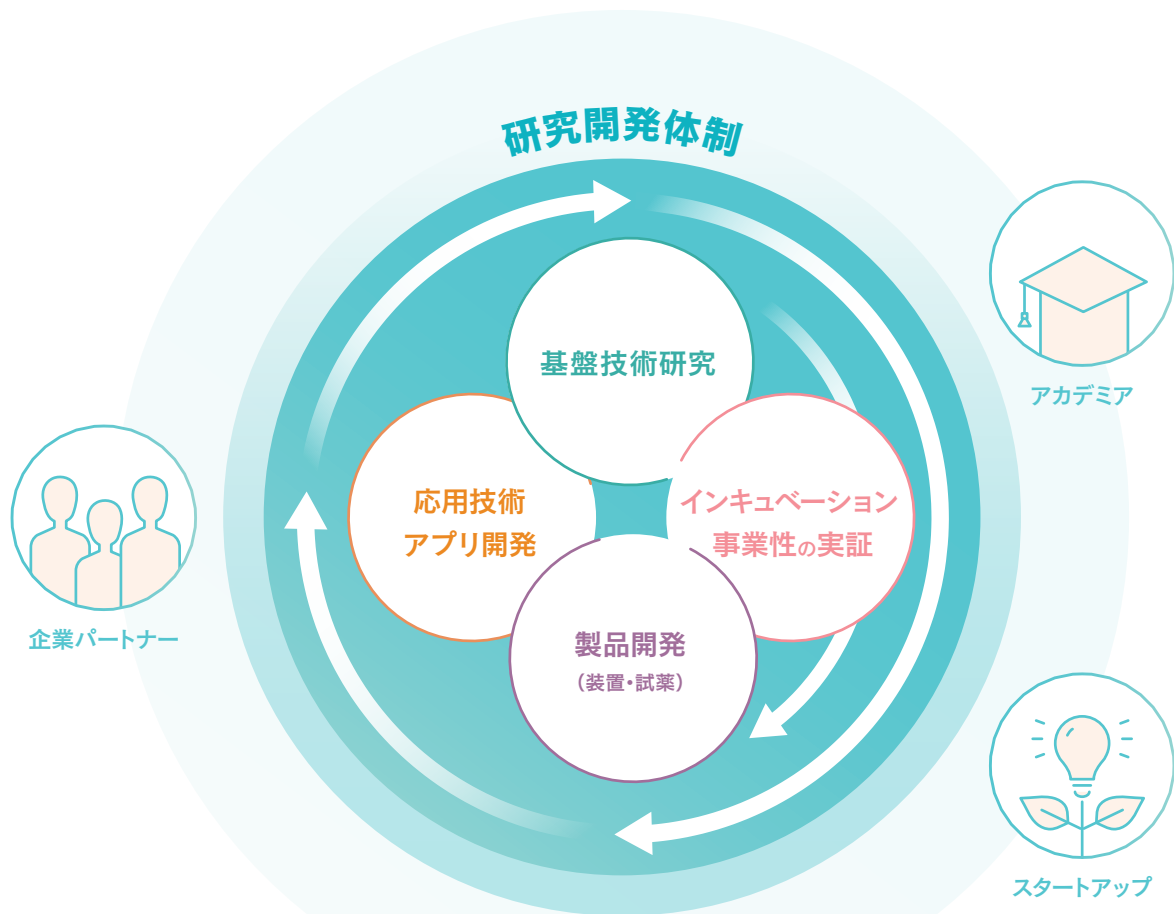


エアマネジメントシステム

イノベーションを推進する研究開発体制と共創プロセス

社是「科学技術で社会に貢献する」に基づいて社会課題と向き合い、
基盤技術研究や製品・アプリケーションの開発を行っています。

またスタートアップとの連携を含めた社外パートナーとの共創を積極的に進め、革新的・先進的な技術・製品の開発や
新たなサービスの社会実装に取り組み、迅速な事業化のためにインキュベーションを強化していきます。



新たな価値を創出するための核となる先進的で独自性の高い技術

先端 分析



イオン(MS)・X線・光・量子などの分野で世界初の技術を開発して顧客課題や社会課題の解決に貢献することを目指します。また、先端分析装置からの多種多様な情報を同時計測し高度に解析する "Whole Analysis" 技術を目指します。

革新 バイオ



技術革新が著しいバイオ領域で高度な技術の獲得・開発を行って、顧客課題や社会課題の解決に繋げていきます。革新バイオ技術によって予防医療や早期診断、再生医療、バイオプロダクトなどの領域で新しい顧客価値を生み出すことを目指します。

脳五感



脳五感計測技術として、低拘束での脳機能計測や五感刺激と連携させたバイオフィードバックによる介入技術、またヒトのパフォーマンスを向上させる技術や心理面の増進をサポートする技術などの脳と五感の複合計測の技術開発を行います。

AI



AIを活用した信号処理・画像処理の研究開発を通して、高度な製品・サービス・新事業を創出し、顧客課題や社会課題に対するソリューションを提供します。また、AI技術とロボティクス技術の融合により、分析・計測・診断・検査の自動化・自律化を進めていきます。

より良い社会に向けたイノベーションの創造に貢献

応用技術 アプリ開発

社会における課題やニーズは、さまざまな国・地域の数だけ存在し、ますます多様化しています。当社グループは、それらの課題やニーズを顕在化し、研究課題までブレイクダウンすることで、お客様の課題解決に幅広く貢献しています。

また、新たな技術やイノベーションの創出のためには、課題やニーズが発生する各地域のパートナーと共に取り組むことが必要不可欠です。そのため、世界各地でさまざまなパートナーと共同開発やイノベーション創出に取り組んでいます。特に米国では、3拠点のR&Dセンターを通じて、製薬・ヘルスケア関連企業や環境分野などの顧客ニーズの的確な把握と、製品・技術の開発を加速します。米州・欧州・中国・アジア・日本の各拠点で先進的顧客と共同研究を推進することで、素早く成果に結び付けています。

欧州



イノベーションセンター
(ドイツ)

中国



イノベーションセンター
(中国)

日本



Solutions COE (京都本社)

米州



R&Dセンター (米国)

アジア



イノベーションセンター
(シンガポール)



Shimadzu Tokyo
Innovation Plaza (神奈川)

アプリケーション技術開発/共創事例

米州

米製薬団体との共同開発で研究開発現場のニーズを反映したセミ分取超臨界流体クロマトグラフを開発



ワシントン大学と共同で健康寿命延伸に向けた測定技術を開発



欧州

仏トタル社および欧州2大学との共同研究によりバイオ燃料の含酸素成分を選択的に検出する世界初の新製品を開発



中国

中国科学院大学と共同でPFASなど環境規制ニーズに沿った開発を推進



アジア

シンガポールの科学技術研究庁や国立病院、現地大学・顧客と臨床分野や食品安全、環境関連の共同研究を推進



日本

大阪大学等と培養肉の製造技術の研究開発と社会実装に向けた取り組み



パートナーとの協働による トータルソリューションの開発・提供

技術開発力と社会実装力の両輪を強化し、お客様に必要なトータルソリューションを提供してまいります。

ロボットとAIが自律的に科学的な発見をするプラットフォームの実現へ

AI技術の 活用

神戸大学と共同で世界で初となるロボットとデジタル技術、AI（人工知能）などを活用した自律型実験システム（Autonomous Lab）プロトタイプの有有用性検証を開始しました。バイオ技術とデジタル技術の融合により、石油や天然ガス由来のものづくりから、バイオ技術を活用したものづくりへの移行を可能にし、化石燃料の不使用やCO₂排出量の削減につなげます。当社は、バイオ・製薬・新素材開発などに液体クロマトグラフ（LC）および液体クロマトグラフ質量分析計（LCMS）を含む自律型実験システムの社会実装を目指しています。



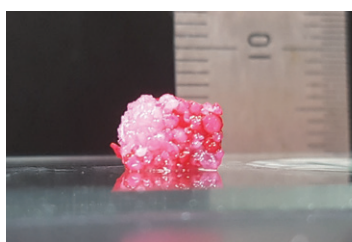
Autonomous Labのイメージ



3Dバイオプリント技術で環境、食糧、健康などの社会課題の解決を目指す

バイオ エコノミー

当社は大阪大学らと2022年に「3Dバイオプリント技術の社会実装」に向けた協業契約を締結しました。培養肉の自動生産装置、食味や噛み応えなどの分析手法や細胞培養に関わる研究開発を通じて、培養肉の実用化に取り組んでいます。2023年には、これを発展させて「培養肉未来創造コンソーシアム」を設立し、培養肉製造に関する社会実装を進めることで、食糧危機や環境問題へのグローバルな社会課題の解決に取り組みます。コンソーシアムでは、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の大阪ヘルスケアパビリオンで、培養肉の実物およびミートメーカー（コンセプトモデル）を展示しました。



和牛の構造を再現した細胞培養肉



ミートメーカー（コンセプトモデル）

日本初となる血液バイオマーカーを用いた認知症診断ワークフローの構築

認知症 診断

当社はエーザイ株式会社、大分大学、臼杵市医師会と共同でアルツハイマー病の早期診断に向けたコホート研究※1を行っています。本研究は大分県臼杵市を実証立地とし、血液バイオマーカーを活用してアルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）および軽度認知症の診断ワークフローを日本で初めて構築する試みです。かかりつけ医から認知症の関連学会専門医に至る医療連携体制において、血液バイオマーカーの有用性を実証し、アルツハイマー病の早期診断への貢献を目指します。

※1 あるグループを長期間観察して、病気の発症などの健康状態の変化を調べる研究のこと。

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5	STEP6
かかりつけ医	コスモス病院/ 健康管理センター	島津製作所	かかりつけ医/ コスモス病院	大分大学	大分大学/ かかりつけ医/ コスモス病院
研究への参加希望者 (50歳以上) (日常診療で物忘れ の症状がある方の スクリーニング)	検査実施 ・認知機能検査 ・問診 ・MRI ・採血	血液バイオマーカー検査 ・アミロイドMS CL検査等 	各種検査結果の 開示と説明 ・心理的影響の評価 (アンケート) ・継続した診療	検査実施 ・認知機能検査(詳細) ・のうKNOW ・アミロイドPET検査 ・その他詳細検査	研究参加者への 結果報告 ・診療方針の決定 ・継続した診療や アンケートの実施

健康長寿社会の実現に向けた“食と健康”のイノベーション創出

フードテック

当社と国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構：NARO）は、2019年に共同研究契約を締結し、当社内に「食品機能性解析共同ラボ（NARO島津ラボ）」を設置。2022年には農研機構と食による健康長寿社会の実現を目指す「セルフケアフード協議会」を設立し、当社は事務局をしています。2023年には健康につながる食品・飲料開発を支援する「NARO島津テストングラボ」を開設しました。農産物などの機能性・安全性の検証や、健康食品・飲料の研究開発と迅速な社会実装を支援しています。



NARO島津テストングラボ



食品機能性解析共同研究ラボ「NARO島津」

事業を通じたサステナビリティへの貢献

島津グループのサステナビリティ経営

私たちは、創業以来、社会課題の解決に対して事業活動を通じて貢献すると共に、社会の一員としての責任を念頭に置いた企業活動を実践してきました。

今後もサステナビリティ経営を実践していくにあたり、社是・経営理念のもと制定した島津グループサステナビリティ憲章において、1) 地球環境とグローバル社会の持続可能性、2) 島津グループの事業活動の持続と成長、3) 従業員の健康とエンゲージメントの向上、の3つの「サステナビリティ」に取り組んでいくことを定めています。

地球環境・社会

①地球環境とグローバル社会の持続可能性

- 地球環境の保全
- 世界の人々の健康長寿の実現
- 産業の発展、安心・安全な社会の実現



島津グループ

②島津グループの事業活動の持続と成長

- 事業を通じた社会価値提供の体制強化
- 事業のサステナビリティを阻害する要因への対応と予防
- サプライヤーと一体となったバリューチェーンの強化



人（従業員）

③従業員の健康とエンゲージメントの向上

- 健康経営、ダイバーシティ経営、従業員満足度の向上
- グローバル人材育成
- 企業理念やサステナビリティ経営の啓発と社内浸透



島津グループサステナビリティ憲章

地球・社会・人との調和を図りながら、“事業を通じた社会課題の解決”と“社会の一員としての責任ある活動”の両輪で企業活動を行い、明るい未来を創造します。

島津グループは、1) 地球環境とグローバル社会の持続可能性、2) 島津グループの事業活動の持続と成長、3) 従業員の健康とエンゲージメントの向上を目指して、サステナビリティ経営を実践していきます。

<https://www.shimadzu.co.jp/sustainability/management/concept.html>



環境経営

私たちは、環境問題の解決を通じた事業活動と企業価値の拡大を目指し、以下の5つの方向性で取り組みを進めています。

バリューチェーンを含めた事業活動におけるCO₂排出抑制や資源循環への取り組み、環境・新エネルギー分野における新たなイノベーション創生に資する製品・ソリューションの提供を行います。生物多様性保全や森づくり活動などの取り組みを図り、幅広く社会に貢献します。

島津グループの環境経営 5つの取り組み

①気候変動対応への取り組み

太陽光発電などの再生可能エネルギーの積極的な導入や、スマートメーターを設置した消費電力の見える化による省エネ施策を強化するとともに、サプライチェーン全体での環境負荷低減に努めます。



再生可能エネルギー使用



消費電力の見える化

②循環型社会の形成に向けた取り組み

3R(リデュース、リユース、リサイクル)を着実に推進し、国内生産拠点・研究所などにおける廃棄物のリサイクル率99%を維持します。自社から排出したプラスチック梱包材をマテリアルリサイクルして製作した廃液容器の活用などの取り組みも実施しています。



プラスチック梱包材を再生して作った廃液容器



排水管理

③地球環境の保全に配慮した製品・サービスの開発・提供

環境・新エネルギー分野において、カーボンニュートラルに向けた開発課題を解決する製品や技術を提供します。すべての製品について常に省エネや小型化などを図り、製品ライフサイクルを通じた環境負荷の低減を推進します。



ガスクロマトグラフ
Brevis GC-2050



島津エコプロダクツPlus
当社独自の環境配慮認定製品



ターボ分子ポンプ
TMP-B-300

④生物多様性の保全に向けた活動

生物多様性保全のための森づくり活動や学校での環境教育授業の実施など、地域や教育機関・団体と連携し、幅広い活動を展開します。



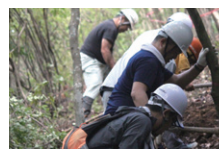
「島津の森」のフタバアオイ



学校での環境教育活動

⑤社員ひとり一人による積極的な環境保全活動

社員全員が「環境貢献企業 島津」の一員として、さまざまな環境活動に積極的に取り組みます。



ボランティア社員参加の森活動



地域の清掃活動への参加

カーボンニュートラルの実現を目指して

TCFD※提言に賛同し気候変動関連情報の開示や、パリ協定の温度目標と整合性があるCO₂排出量削減目標(SBT)を設定しました。また、使用する電力を再生可能エネルギー由来100%とするRE100宣言を行い、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいます。

TCFD
TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES



RE100

※企業などに気候変動関連の情報開示を求める国際的な枠組み

環境省の「自然共生サイト」に認定

「自然共生サイト」とは、民間の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する制度です。本 社・三条工場の「島津の森」は日本の保全地域として、生物多様性の保全を進めます。



多様な人材の活躍推進

産学連携でグローバルな高度専門人材の育成を目指す

当社と大阪大学は、2021年から当社の技術者・研究者の博士号取得を支援する「REACHラボプロジェクト」を進めています。大阪大学・島津分析イノベーション協働研究所に設けた「REACHラボ」に社内公募した社員を派遣し、卓越した研究者の下で、博士後期課程学生として共同研究に取り組んでいます。2023年からは人材の確保と社会実装を推進するリーダーを育成するため「REACHプロジェクト」に発展させました。大阪大学大学院の学生を修士課程修了時に当社で採用し、博士後期課程に社員として派遣し共同研究を行います。研究対象の範囲も従来の理系から文理融合分野・人文社会科学系にも広がっています。



健康経営・ダイバーシティ経営

ありたい姿「違いを認め、一人ひとりの強みを組織の力へ」の実現

当社では、ダイバーシティ推進を一人ひとりが持つ強みや専門性を発揮することで、社会課題の解決に繋がるイノベーションを創出することができる経営戦略の重要な柱の一つとして位置付け、DE&Iグローバルスローガンを定義しています。多様な人材の確保だけでなく、イノベーションの創出につなげる次の段階へと進めるなか、役員や管理職を対象としたダイバーシティ・マネジメント研修や、意思決定層の多様化を目指した女性従業員のリーダーシップ研修など具体的な取り組みを実施しています。当社は経済産業省「なでしこ銘柄」に7回選定されたほか、プラチナくるみん、えるぼし三ツ星など各種社外評価を受けています。

社員とその家族が心身ともに健康であるために

当社では、運動・食事・睡眠・こころ・禁煙の5つのテーマを重点課題として、社員とその家族が日々の生活をいきいきと過ごせるよう健康維持増進活動を行っています。特に健康イベントの参加促進、全面禁煙の取り組みに加え、自社技術の還元として、乳房専用PET装置を用いた乳がん検診を、40歳以上の女性社員あるいは40歳以上の女性配偶者を対象に、また、軽度認知障害(MCI)のリスクを判定する「MCIスクリーニング検査プラス」を、2024年度からは40歳以上の社員だけでなく家族も対象に受診費用補助を行っています。当社は健康経営優良法人ホワイト500に9年連続認定されています。



サプライチェーンマネジメント

取引先との共生とパートナーシップの構築

当社グループでは、製品の製造において、多くの取引先からグローバルな調達を行っています。調達は事業活動の基盤を支えるものと位置づけ、「共生とEQCD(環境・品質・価格・納期)」を取引の基本とし、公正な取引、取引先とのパートナーシップの構築、CSR調達の推進を行っています。特にCSR調達に関しては、調達ガイドラインを制定・公開し、「人権・労働」、「安全・衛生」、「環境」、「倫理」、「BCP(事業継続計画)」の5つの分野について、当社と取引先が共に社会的責任を果たすために取り組むべき事項を定めています。また、サプライチェーンのすべてにおいて人権の尊重、環境負荷低減に努めています。具体的には、人権デューデリジェンスの体制構築やScope3(スコープ3)の排出量削減の取り組みなどを推進していきます。その他、紛争鉱物対応では、国際的な枠組みに則った社内体制を構築しています。そして、欧州をはじめとする各国の製品含有化学物質規制に対しては、調達基準を策定し、「非含有保証書の取得」、「取引先の監査」、「各種資材のサンプル分析」の体制で、環境負荷を抑えた持続可能な調達に積極的に取り組んでいます。



ガバナンス改革

コーポレートガバナンスの強化

当社は島津グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、コーポレートガバナンス・コードを具体的に実践していくため「コーポレートガバナンス・ポリシー」を2015年に制定しました。

さらに、取締役会の任意の諮問機関として、指名・報酬委員会を2018年に設置しています。

当委員会は、取締役等の報酬額の決定や、取締役会決議に先立つ役員候補者の指名・選任に関する審議・答申を行っていますが、委員の過半数を独立社外取締役とし、原則として議長を独立社外取締役とすることで、指名・報酬に関する客観性・透明性を高めています。

また、「コンプライアンスは全てに優先する」を基本として、グループ全体でガバナンスの強化、組織と風土の改革を推進し、一人ひとりのコンプライアンス意識とリスクへの感度を高めることによりコーポレートガバナンスの強化を図っています。

コーポレートガバナンス体制

組織形態	監査役会設置会社
取締役の人数 (社外取締役)	7名 ※女性2名含む (4名 ※うち独立役員は4名)
監査役の人数 (社外監査役)	4名 (2名 ※うち独立役員は2名)
取締役会の議長	会長(社内取締役)
取締役の任期	1年
指名・報酬委員会	人数6名(社外取締役4名) ※議長は社外取締役が担当
執行役員制度の採用	有 ※取締役会で選任
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

CSR

日本の優れた研究者への島津賞・研究開発助成

島津科学技術振興財団

科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究において、功労者を表彰する「島津賞」や若手研究者への「研究開発助成」など、島津科学技術振興財団はさまざまな支援活動を通じて日本における科学技術の振興に貢献しています。



医療従事者の育成

学校法人島津学園 京都医療科学大学

X線装置のパイオニアである当社が、日本初のレントゲン技師(現診療放射線技師)の正式養成機関「島津レントゲン技術講習所」を1927年に創設し、その後2007年に京都医療科学大学として開学。創立以来4,000名を超える卒業生が全国の医療機関で活躍しています。



テニスを通じた社会貢献活動

当社では、テニスを通じた社会貢献活動に力を入れています。日本テニス協会主催の3大トーナメントのひとつ「島津全日本室内テニス選手権大会」への特別協賛やジュニアテニス教室の開催など、日本のテニス界の発展、地域の振興をサポートしています。



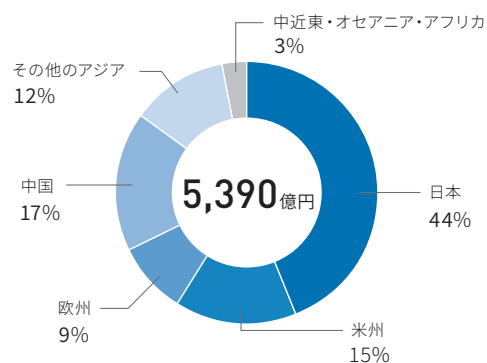
科学への興味を広げる島津ぶんせき体験スクール

小・中・高校生に「理科や科学に興味を持ってもらう“きっかけ”を提供したい」という思いから、当社製品の関連技術をテーマにした科学スクールを2007年から継続して開催しています。これまでに9,000名を超える子供たちが、分析計測装置を使った実験やモノ作り体験に参加しました。アメリカ、イギリス、ドイツ、中国、シンガポール、マレーシアなど当社の海外拠点でも開催し、科学技術で社会に貢献する人材を育成しています。

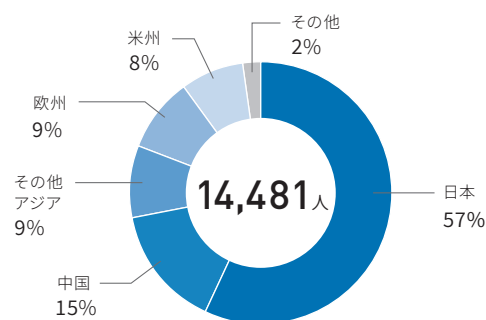




地域別売上高比率



従業員構成比率



海外拠点案内はこちら

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/sub.html#02>



米州

Shimadzu U.S.A. Manufacturing, Inc.



- ガスクロマトグラフ質量分析計
- 液体クロマトグラフ質量分析計



欧州

Kratos Analytical Ltd. (英国)



- 質量分析計
- X線光電子分光分析装置



ALSACHIM SAS



- 安定同位体試薬



アジア

島津儀器(蘇州)有限公司



- 液体クロマトグラフ
- 全有機体炭素計
- 原子吸光分光光度計



Beijing Shimadzu Medical Equipment Co., Ltd.



- X線TVシステム
- 一般撮影システム
- 回診用X線撮影装置



Shimadzu Manufacturing Asia Sdn. Bhd.



- 液体クロマトグラフ
- 紫外可視分光光度計



Shimadzu Philippines Manufacturing Inc.



- 電子天びん



天津岛津液压有限公司



- 油圧歯車ポンプ



会社概要

商 号 …… 株式会社 島津製作所
Shimadzu Corporation
創 業 …… 1875 (明治8) 年3月
設 立 …… 1917 (大正6) 年9月
本 社 所 在 地 …… 〒604-8511
京都市中京区西ノ京桑原町1番地
電話番号 075-823-1111 (代表)
資 本 金 …… 約266億円
従 業 員 …… 単独3,687人 連結14,481人
連 結 子 会 社 数 …… 国内23社 海外58社
(2025年3月31日現在)

役 員

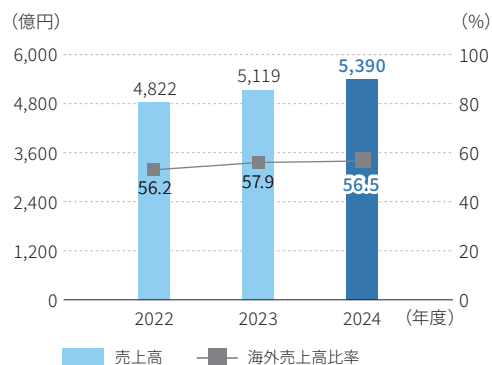
取締役	監査役
代 表 取 締 役 …… 上田輝久	常 勤 監 査 役 …… 小谷崎真
代 表 取 締 役 …… 山本靖則	常 勤 監 査 役 …… 山田洋一
取 締 役 …… 渡邊 明	社 外 監 査 役 …… 西本 強
社 外 取 締 役 …… 花井陳雄	社 外 監 査 役 …… 林 由佳
社 外 取 締 役 …… 中西義之	
社 外 取 締 役 …… 濱田奈巳	
社 外 取 締 役 …… 北野美英	

(2025年6月26日現在)



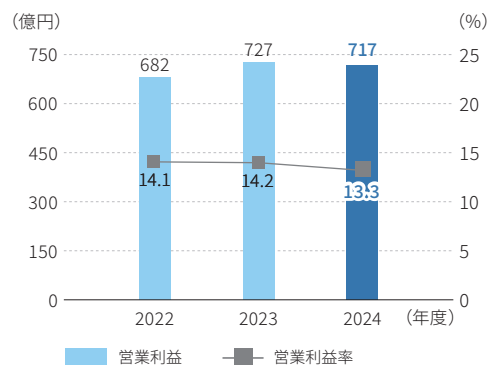
売上高／海外売上高比率

5,390 億円 | 56.5 %



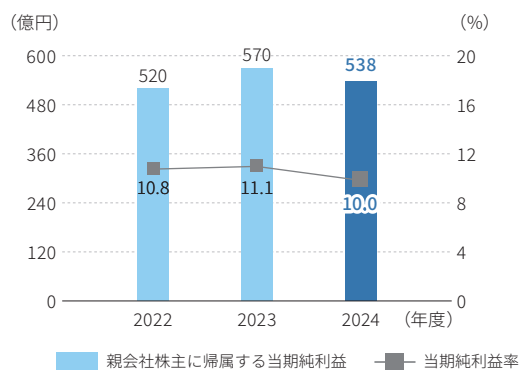
営業利益／営業利益率

717 億円 | 13.3 %



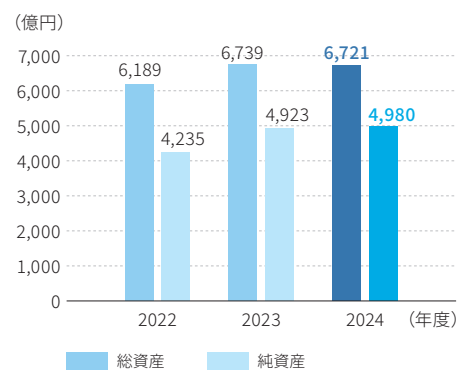
親会社株主に帰属する当期純利益／当期純利益率

538 億円 | 10.0 %



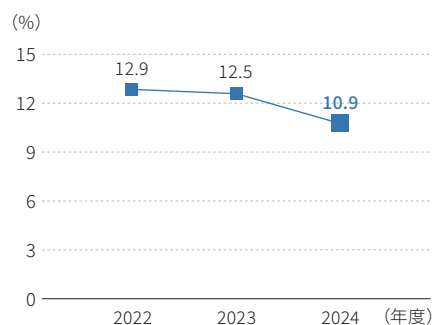
総資産／純資産

6,721 億円 | 4,980 億円



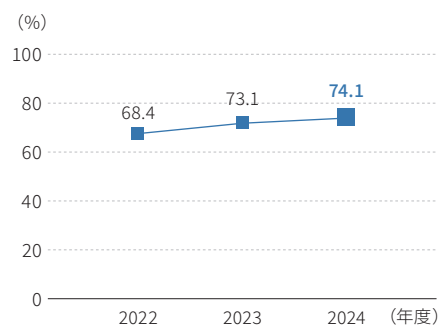
自己資本当期純利益率 (ROE)

10.9 %



自己資本比率

74.1 %



Excellence in Science

SHIMADZU ブランドの製品・サービスを利用するすべての方に対して、私たちは何をお届けできるか。何を提供すべきか。それを一言に凝縮したのが、島津グループブランドステートメント “Excellence in Science” です。

私たちの製品・サービスは、お客様がさまざまな新製品を開発するために、また環境の保全や改善のために、あるいは人々の健康や暮らしをより良くするために、世界中で用いられています。

このブランドステートメントは、その誇りを胸に刻み、これからもさらに優れた技術・製品・サービスを提供できるよう、いっそうの技術の研鑽、知識の集積につとめ、「科学において卓越した存在」と呼ばれるだけの力を持つことを、社会と自らに約束するものです。

株式会社 島津製作所

〒604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町1
<https://www.shimadzu.co.jp>